# 2026 年度 日本教科内容学会 功績賞

## 受賞者　増井三夫氏

**授賞理由**

教員養成における教科専門については、以前から、教科内容を教育実践と結びつけた独自の専門性をもつ学問分野として構築する必要性が指摘されてきた。しかし、この課題に対する問題意識がある程度存在し、それに対応する試みが行われてはいたものの、実質的な進展は長らく見られなかった。その主な要因は、この新たな学問分野である「教科内容学」を構築するための指針、すなわち学問や芸術の成果を教科内容として再構成する原理や研究方法が不明な状態に留まっていた点にあった。

増井三夫氏は、およそ 20 年前に西園芳信氏（昨年度功績賞受賞者）とともに、この困難を乗り越えるための挑戦を開始した。増井氏は、まず教科の基本認識を確定した上で、そこから教科内容構成の原理と体系を導出することによって教科内容学の構築を実現するという構想を抱いており、その具体化に向けて、西園氏とともに 2006～2008 年度に兵庫教育大学連合大学院で共同研究を組織し本格的な研究を開始した。さらに、2010 年度には日本教育大学協会特別研究助成、2010～2011 年度には文部科学省先導的大学改革推進委託事業を、ともに研究代表者として推進し、教科内容学の理論的基盤の形成において重要な役割を果たした。また、増井氏は教科内容学に係る数多くのシンポジウムにおいて講演者やシンポジストを務め、その意義の普及・啓発に尽力してきた。本学会は、こうした一連の活動を主要な契機の一つとして設立されたものであり、増井氏は本学会の設立に本質的かつ多大な貢献を果たしたといえる。

加えて、学会設立後も近年に至るまで副会長および常任理事を長年務め、学会の組織運営と発展に大きく寄与してきた。

以上の功績を称え、日本教科内容学会功績賞を贈呈するものである。